

『第7回(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会』の報告

2月16日(土)午前、榎町地域センターにおいて、特別委員を除く26名の検討委員のうち23名の参加により、第7回検討会を開催しました。

基本計画素案について

事務局より、基本計画素案について説明を行いました。基本計画素案に対する質疑応答のうち、各委員からのコメントをいただきました。

主な質疑応答

○「記念館のめざす姿」として4項目あるが、「文学館としての基本的機能」は特に重要な要素と考える。その他の3項目と並列で記載されている理由は何か？

↓本記念館の特徴である「漱石山房の再現」をはじめ、4つの視点からとりまとめた。文学館としての基本的機能も非常に大切なことと捉えている。それぞれが別の視点であり、例えば順序や字数で重要度が高かれるものではない。

○講座室の収容人数は？

↓50名程度を想定している。

○記念館と漱石公園を一体的に記念館の職員が管理するのか？

↓公園の開け閉め等についてはそのように想定している。どちらが管理するにしても、利用者に不便がないよう、近隣の方に影響がないように管理していきたい。



各委員からのコメント

○記念館の方向性

- ・格調ある本格的な文学館、記念館を目指すべき。できあがった施設が活かされ、発展していくことが重要。また、経済的にも持続可能な施設にしていかなければいけない。
- ・記念館を維持していくには設置者の覚悟と、利用者が必要を感じ、支える主体としての意識を持つことが重要。

○事業活動

- ・漱石ファンや地元の方々が協力できるような連携の具体例を発信してほしい。
- ・「世界の中の漱石」「アジアの中の漱石」という面を強調し、情報発信にも力を入れるべき。また、学芸員もアジアの人材を取り入れたい。
- ・長期的に活用できるような企画・運営することが必要。金曜日の夜に講座や企画を行うなど、若い人が来られるような活動を行うべき。光り輝く施設となるためには、若者が必要。
- ・立派な記念館が整備されることにより、資料の寄贈や寄託を促進できる可能性が高まる。調査研究や資料管理の充実をアピールすることが重要。
- ・ホームページの充実には、時間とお金を惜しむことなく、開館前から充実を図るべき。外国語対応や書誌検索などにも対応してほしい。
- ・ボランティアガイドが活動しやすいよう、配慮すべき。

○施設整備

- ・本物があり、感動でき、くつろげる空間があることが、自然と賑わいにつながる。キラッと輝く「本物」のある充実した空間を作ることが大切。
- ・歳月を経て古びてしまうような建築ではなく、さらに味わいが深まるような建築が望ましい。
- ・持続可能な施設としては2階建が妥当。レファレンス機能は重要なので、重視してほしい。
- ・漱石を感じながら散策できる庭を備えたい。また、猫のモニユメントというアイデアもある。
- ・庭園の管理は非常に大変なので、継続的な手入れができるよう計画すべき。

○サービス機能

- ・魅力的で、運営にも寄与する飲食サービスのあり方について、今後、検討を深める必要がある。
- ・漱石ゆかりの菓子を販売してはどうか。

○管理運営体制

- ・公園と記念館を一体的に管理・運営すべき。
- ・文化事業には多大な費用がかかるものなので、管理運営費を徹底的に安くできるようなしくみを作り、長期的な運営をめざしたい。
- ・館長と事務局長は絶対的な要である。座長をはじめ学識経験者の方々の協力を得ていくべき。
- ・本一記念館をどのように育て、大きくしていくか、開館後の活動が大事。地元企業と協力すべき。

○周辺整備

- ・防災倉庫をはじめ、これまでの漱石公園の機能や住民サービスを確保してほしい。
- ・予定地の前面道路は、通学路になっている。車いす専用駐車場以外の駐車場が設置されていないのは、安全面からよいことだ。
- ・周辺の道路や街路樹、街灯などの整備、ベンチなどの休憩機能の充実も併せて行ってほしい。

○今後のあり方

- ・今後も記念館整備に対して、側面からお手伝いしていきたい。また、今後の整備状況について、随時報告してほしい。

「新宿区夏目漱石記念施設整備基金」の設置について

(仮称)「漱石山房」記念館の整備に当たり、全国からこの事業に広くご参画いただく仕組みとして、整備基金を設置し、漱石愛好家をはじめとする多くの方々にご支援、ご協力を呼びかけていきます。記念館整備に必要な建設及び展示制作のためのもので、募集開始は平成25年7月1日の予定です。